

## Press Release

**8月31日(水) 報道関係者限定 事前内覧会・  
野外公演 会場見学のご案内**

2016年8月19日

# 今年も北加賀屋で大型現代アート作品展『Open Storage 2016』

9月2日(金)よりスタート

昨年好評の対話型鑑賞ツアーに、新たに未就学児向けプログラム提供

～大阪凱旋・大阪初開催 やなぎみわ演出 ステージトレーラー野外公演他、現代美術作家6名が出演～

一般財団法人おおさか創造千島財団(所在地:大阪市住之江区)は、大型現代アート作品の一般公開「Open Storage 2016」を、9月2日(金)から19日(月・祝)まで実施いたします(金・土・日・祝日オープン)。

広さ約1,000㎡・高さ9mの鋼材加工工場・倉庫跡地を活用した「MASK(MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)」(所在地:同北加賀屋5-4-48)で保管する作品を一挙に公開する同展覧会は、今年で3回目。本年度メインアーティスト・やなぎみわ演出による、演劇「日輪の翼」大阪凱旋公演を名村造船所跡地で初開催する他(3公演)、ヤノベケンジなど国際的に活躍する現代美術作家6名の作品11点を展示。また、昨年好評を得た対話型鑑賞ツアー(10日、11日の2日間実施)に、新たに未就学児向けプログラムを提供、子どもから大人まで幅広い年代が楽しめる、大型現代アート作品展を目指します。

なお、8月31日(水)午後4時半より、報道関係者限定のMASK内覧及び野外公演の会場見学を行います。【取材申込書添付】



昨年の対話型鑑賞ツアーには、親子参加も多かった



Open Storage 2014 の展示

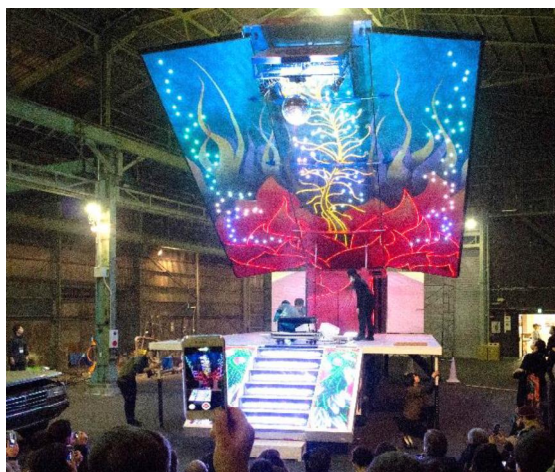
昨年初めて実施した、他者との対話を通して作品を読み解く“対話型作品鑑賞ツアー”。小学生から大人まで合計260人が参加し、鑑賞時間が増えたり、走り回る子どもが減ったり、想定以上に鑑賞者の変化が見られました。これを受け、今年も大人と小学生向けプログラムを提供。新たに未就学児向けツアーも企画し、よりその年齢層に特化したコミュニケーションのもと、大型アート鑑賞を楽しみます。

## 生誕70年、戦後初の芥川賞作家 中上健次の原作「日輪の翼」野外演劇

## 台湾製の高さ10mに開く大型トレーラーを舞台に、ポールダンス、サーカスパフォーマンスなど多彩な演出

初日から3公演を予定する、現代美術家やなぎみわ(神戸市出身)演出による野外公演は、今年生誕70年を迎えた、戦後初の芥川賞作家 中上健次(1946-92)の長編小説「日輪の翼」を舞台化。台湾で「貸し舞台」として日常的に走る大型トレーラーを、オリジナル美術作品に創作し、これを舞台に役者やポールダンサー、サーカスパフォーマーなど総勢17人が演じます。

MASKに保管されている同トレーラーは2014年に横浜トリエンナーレで初披露後、今年ついに演劇公演を実現。横浜、和歌山などを巡演し、大阪凱旋を果たします。名村造船所跡地(近代化産業遺産)を会場に、野外だから実現したクレーン車を使うアクロバティックな演出も、本公演の見所の一つです。



約10メートルの高さに開く、車両型の大型美術作品



ポールダンサーも出演

### ■本件に関するお問い合わせ先

一般財団法人おおさか創造千島財団 事務局 担当:緒方(090-1360-5689)、木坂  
〒559-0011 住所:大阪市住之江区北加賀屋2-11-8 北加賀屋千島ビル4F  
TEL: 06-6681-7806(平日9:30-17:30) 会期中:06-6681-6170 / FAX:06-6681-6188  
Email:found@chishimatochi.info <http://www.chishimatochi.info/found/>

## 北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想と MASK

かつて造船業で栄えた大阪・北加賀屋は近年、時代の変化とともに空き地や空き家が増加し、空洞化が進行しています。この地域課題を受け、2009 年より企業や行政、クリエイターが連携し、名村造船所大阪工場跡地(近代化産業遺産)を中心に「芸術・文化が集積する創造拠点」として地域再生を目指す「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」を推進。本構想の一環として、かねてより美術業界で保管場所の確保が課題であった大型現代アート作品の収蔵及び展示、滞在制作も行えるオープンストレージ「MASK」を、2012 年に開設しました。**2015 年 11 月の一般公開には 2,700 人、これまでにのべ 5400 人が来場しました。**



ヤノベケンジ 火を噴くラッキードラゴン (Open Storage 2015)

## 対話型鑑賞ツアーとは

鑑賞ツアーは、京都造形芸術大学で研究・実践されている作品鑑賞法「ACOP / エイコップ(Art Communication Project)」に基づいて構成されています。ACOP とは、「みる、考える、話す、聴く」の 4 つを基本とした対話型の美術鑑賞教育プログラム。美術史等の知識だけに偏らず、鑑賞者同士のコミュニケーションを通して、美術作品を読み解いていく鑑賞方法を提唱しています。

「Open Storage 2016」では、同大学で専門的に学ぶ学生らがツアーナビゲーターとなり、鑑賞者自身が作品をよく「みる」ことから始め、「これは何だろう？」と考え、様々な意見を交換しながら、作品のメッセージをより深く受け取っていくことをサポート。また初めての大型アート鑑賞をサポートする、“みんなで探検ブック”を、昨年に引き続き今年も配布します。



今年も配布する“みんなで探検ブック”



来場者の滞在時間が長くなった。(2015 年のツアーの様子)

### ■本件に関するお問い合わせ先

一般財団法人おおさか創造千島財団 事務局 担当:緒方(090-1360-5689)、木坂  
 〒559-0011 住所:大阪市住之江区北加賀屋 2-11-8 北加賀屋千島ビル 4F  
 TEL: 06-6681-7806(平日 9:30-17:30) 会期中:06-6681-6170 / FAX:06-6681-6188  
 Email:found@chishimatochi.info <http://www.chishimatochi.info/found/>



# MASK [MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA] Open Storage 2016 企画概要

タイトル

Open Storage 2016 ー見せる収蔵庫ー

会期・会場

## 【プログラム1】「Open Storage2016」一般公開@MASK

【日時】2016年9月2日(金)～19日(月・祝) 金土日祝のみ、計10日間

【開場時間】12:00-18:00 ※イベント・プログラム開催時は変動、最終日は17:00まで

【会場】MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA) 大阪市住之江区北加賀屋 5-4-48

【入場料】無料

【参加作家】やなぎみわ、宇治野宗輝、金氏徹平、久保田弘成、名和晃平、ヤノベケンジ

	2(金)	3(土)	4(日)	9(金)	10(土)	11(日)	16(金)	17(土)	18(日)	19(月)
一般公開 12:00-18:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	☆～17:00
やなぎみわ トーク 19日15時-17時										●
『日輪の翼』 18:30-20:30	●	●	●							
対話型鑑賞ツアー 12時/14時/16時					◎	◎				

## 【プログラム2】『日輪の翼』大阪公演@クリエイティブセンター大阪 (やなぎみわ 収蔵作品関連パフォーマンス)

【日時】2016年9月2日(金)、3日(土)、4日(日) 3公演

【開演】18:30 ※開場は開演の30分前

【会場】名村造船所跡地 クリエイティブセンター大阪 大阪市住之江区北加賀屋 4-1-55  
※プログラム1の会場より徒歩5分

【入場料】前売3,000円、当日3,500円 ▼全席自由／入場整理番号付き

【チケット予約】(2016年6月1日より販売開始)

[e+(イープラス)] <http://eplus.jp/>

<Open Storage 2016『日輪の翼』大阪公演> チケット販売(前日まで)。

パソコン・スマートフォン等から予約購入の上、配送またはファミリーマート、セブンイレブンにてお受取りください。

## 【プログラム3】対話型作品鑑賞プログラム ひらけ、アートのヒミツ基地！(予定)

対話型鑑賞ツアー＋鑑賞ガイドブック配布

MASK 収蔵作品への印象・疑問・気づきなど、みなさんの素朴な「？」を自由に話し合いながら、じっくり鑑賞していくツアーです。

【日時】9月10日(土)、11日(日)

12時(未就学児向け)/14時(小学生向け)/16時(大人向け) 各回約45分

【会場】MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA) 大阪市住之江区北加賀屋 5-4-48

【入場料】無料 (事前予約制、定員あり)

【申込】参加日日程、人数、名前、連絡先を明記の上「a.kisaka@chishimatochi.com」までお申し込みください。

[鑑賞ツアー・鑑賞ガイドブック監修] 藤村南帆・森脇盟子・山崎汐莉香・山本陽子(京都造形芸術大学アートプロデュース学科) 北野諒・青山真樹(京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター)

## 【プログラム4】やなぎみわトーク「花鳥虹との道ゆき」

【日時】9月19日(月・祝)15:00-17:00

【会場】MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA) 大阪市住之江区北加賀屋 5-4-48

【入場料】無料

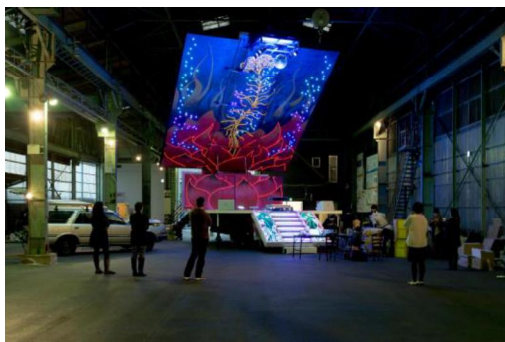
主催	一般財団法人 おおさか創造千島財団
企画協力	木ノ下智恵子
対話型鑑賞 プログラム監修	京都造形芸術大学アートプロデュース学科、アート・コミュニケーション研究センター
助成	芸術文化振興基金、大阪市、公益財団法人 朝日新聞文化財団
協賛	株式会社ハートス
協力	KAAT 神奈川芸術劇場、京都造形芸術大学 ULTRA FACTORY、SANDWICH、YAMAMOTO GENDAI、一本松海運株式会社
後援	歴史街道推進協議会
各会場へのアクセス	<p>大阪市営地下鉄四つ橋線 北加賀屋駅 4 番出口より徒歩 10 分</p> <p>※JR新大阪方面からは、地下鉄御堂筋線「大国町」駅で四つ橋線に乗換</p> <p>※阪神高速堺線「玉出」出口より約 5 分</p> <p>※近隣に有料駐車場有。</p>
問い合わせ先	<p>一般財団法人おおさか創造千島財団</p> <p>TEL:06-6681-6170・Email: <a href="mailto:found@chishimatochi.info">found@chishimatochi.info</a></p> <p>※開催時間、内容、展開会期中の近隣施設イベントの詳細は当財団ウェブサイトに掲載します。</p> <p><a href="http://www.chishimatochi.info/found/">www.chishimatochi.info/found/</a></p>

## メイン・アーティストについて



### 【やなぎみわ プロフィール】

神戸市生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。  
 1990 年代後半より写真作品を発表。国内外での個展多数。2009 年、第 53 回  
 ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表。  
 2010 年より演劇公演を手がけるようになり、2011 年から本格的に演劇活動をは  
 じめ、美術館や劇場等で上演を重ねる。大正期の日本を舞台に、新興芸術運  
 動の揺籃を描いた「1924」三部作、明治後期のパノラマ館などを舞台にした  
 「パノラマ」シリーズを、美術館と劇場双方で上演したことで話題を集めた。  
 2013 年に「ゼロ・アワー〜東京ローズ 最後のテープ」を演出し、昨年北米5都  
 市を巡回。2014 年に今回の舞台として使用するステージトレーラーを横浜トリ  
 エンナーレで発表。2016 年、ついに演劇公演を実現する。京都造形芸術大学  
 教授。



《『日輪の翼』上演のための移動舞台車》  
 2014  
 1,021×652×1,129cm(展開時)

### 【移動舞台車について】

荷台の背が持ち上がる独自の変形で、展開すれば光り輝く舞台となる。少人  
 数で運用できるので機動性も高く、台湾では現在数百台稼動しており、地元  
 の祭りや宴会、選挙運動などの際に出張し、歌手やダンサー、芸人などが公  
 演したり、カラオケ大会の舞台としても使用されている。基本設計は台湾オリジ  
 ナルで、類似のものは他国には例がない。日本でデザインし台湾で製作され  
 た初めての舞台車である。  
 やなぎは作品化に際し、本の道路交通法を考慮して発動機のないリヤカーの  
 形で輸入し、日本でトレーラーヘッドを付けて走行する。変形を含めての演劇  
 進行を計画しており、このような使い方は初めての試みである。外装には、中  
 上健次作品の象徴となる鳥と龍の融合が描かれ、展開すれば架空の花「夏芙  
 蓉:」が光り輝く舞台となる。

### 【『日輪の翼』原作者について】

中上健次(なかがみ・けんじ 1946-1992)  
 和歌山県生れ。新宮高校卒業後、上京し「文芸首都」の同人となる。第一作品  
 集『十九歳の地図』で注目を集め、76 年『岬』で戦後生れとしては初めてとなる  
 芥川賞受賞作家となる。翌 77 年『枯木灘』で芸術選奨新人賞、毎日出版文化  
 賞を受賞。被差別部落の出身であり、部落のことを〈路地〉と表現する。熊野の  
 〈路地〉をトポスとして、「紀州サーガ」と呼ばれる濃密で重層的な作品群を創  
 出した。  
 1992 年夏、腎臓癌のため和歌山県東牟婁郡那智勝浦町内の日比病院で死  
 去。代表作に『枯木灘』、『千年の愉楽』、『日輪の翼』、『讃歌』ほか。  
 2016 年には生誕 70 周年を迎える。

### 【『日輪の翼』あらすじ】

住み慣れた熊野の〈路地〉から立ち退きを迫られた七人の老婆たちは、同じ  
 〈路地〉出身の若者・ツヨシらが運転する冷凍トレーラーに乗って流浪の旅に出  
 た。伊勢、諏訪、出羽、恐山、そして皇居へと至る道中で、御詠歌を唱え、  
 神々との出会いに至福を分かち合う老婆と、女漁りに奔走し性の饗宴を繰り広  
 げる若者たちの、珍妙無比な遍路行。滑稽と悲哀、解放と喪失、信仰とエロテ  
 ィシズム……。〈路地〉の先に広がる遙遠なる旅に、人間の原初の輝きを生き  
 生きと描きだした中上健次の痛快傑作。  
 (『日輪の翼 中上健次選集5』小学館文庫あらすじより)

## 参加作家・MASK 収蔵作品一覧(五十音順)



撮影:仲川あい

宇治野宗輝

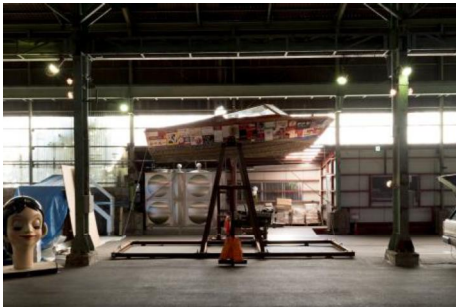
《THE BALLAD OF EXTENDED BACKYARD, THE HOUSE》2015  
 ※2015 年 10 月、MASK にて滞在制作  
 家電機器、木、鉄、ミクストメディア  
 400×800×700cm(展開時)  
 【建築設計】dot architects、片岡慎策



撮影:仲川あい

金氏徹平

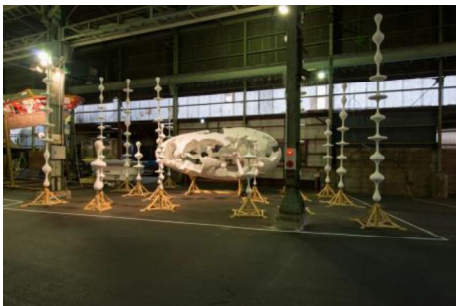
《Splash and Flake(Pipeline/Kitakagaya)》  
 ※2014 年 11 月、MASK にて滞在制作  
 2014 Wood, Plastic and Steel Found Objects  
 dimensions variable ほかに 2 作品



撮影:守屋友樹

久保田弘成

《大阪廻船》  
 2013 プレジャーボート、鉄、エンジン、ステッカー  
 400×380×550cm



撮影:仲川あい

名和晃平

《N 響スペクトル・コンサート「Tale of the Phoenix」舞台セット》  
 2015 mixed media  
 dimensions variable



撮影:守屋友樹


ヤノベケンジ

《ジャイアント・トラヤン》2005 アルミニウム、鉄、真鍮、FRP、発泡スチロール  
 720×460×310cm  
 《ラッキードラゴン》2009 船、アルミニウム、FRP、他 1,000×450×1,530cm  
 《サン・チャイルド》2011 FRP、鉄、ネオン、他 620×444×263cm ほかに

## ■MASK(MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)概要

 <p>             撮影： 守屋友樹           </p>	<p>MASK(MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)</p> <p>             鋼材加工工場・倉庫として使われていた建物をそのまま活用。床面積約 1,030 m<sup>2</sup> (52.5×19.5m)、高さ 9.25m。           </p> <p>             事務所跡を改装したホワイトキューブ(展示スペース)と簡易レジデンスを併設。各地の芸術祭などに出版された大型の現代美術作品は、保管場所の確保が難しく、会期終了後に解体や廃棄を余儀なくされるケースが多い。このような状況に一石を投じ、大阪の創造環境の向上に寄与したいとの思いから、おおさか創造千島財団は、大型作品を無償で保管・展示する「MASK」を 2012 年より運営している。           </p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ■名村造船所跡地 クリエイティブセンター大阪概要

	<p>クリエイティブセンター大阪</p> <p>             大阪市住之江区の木津川河口に位置し、名村造船所大阪工場が移転後、休眠状態となっていた広大な敷地をクリエイティブな活動による活性化を目的として 2005 年に開設された創造スペース。2007 年、名村造船所跡地は経済産業省の近代産業遺産に認定された。           </p> <p>             現在では、年間約 3.5 万人が訪れ、音楽ライブ、パフォーマンス等の会場、また、映画やテレビのロケ地として利用されている。           </p>
------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------